

源流域と琵琶湖をつなぐ流域環境の探究 —奥山・里山・里湖—

# 未来につなげ! 琵琶湖の環境

## 伝統文化にも「科学の目」を

琵琶湖北部の湖岸にある滋賀県立高島高等学校は、身近な自然環境と、その自然が育んだ文化にも焦点を当てた学習活動を展開している。

環境学習船を用いた琵琶湖の水質調査やカワウが急増した竹生島の植生調査などに加え、琵琶湖特産のニゴロブナを使ったふなずしの漬け込み実習でも、pH値の計測で乳酸発酵の経過を解明するなど、「科学の目」で地域の文化を考察した。

担当の小林泰彦教諭は「身近な環境や文化がテーマであるため、生徒は興味を持ちやすかったようです。琵琶湖の長年の懸案である外来種について独自に調べ始めたり、進学先での研究テーマにしたいと考えている生徒も出てきました」と語る。



琵琶湖で調査実習



## 滋賀県立高島高等学校

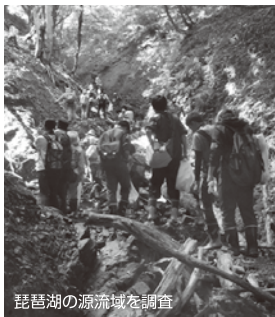


### ●実施担当

小林泰彦 教諭

### ●活動のモットー

生徒が自分たちで何かを発見していくようにするため、興味を持ちやすい、身近な自然や文化をテーマに選ぶように心がけている。



琵琶湖の源流域を調査



琵琶湖の水質調査



里湖の食文化「ふなずし」

## 体系的な調査で気付いた流域環境のつながり

研究成果は、2017年12月23日に広島市で開かれた「成果発表会西日本大会」（2ページ参照）でも発表された。代表として参加した生徒の一人、泰中音緒さんは「プレゼンの練習などを通して、相手の目を見て話すことや、伝えたいことを頭で整理できるようになりました」とコミュニケーション能力の向上を実感している。さらに「今回の研究を次の代にも受け継いでもらい、琵琶湖に興味を持つきっかけにしてほしいです。琵琶湖の水は近畿の水がめといわれ、流域の生活を支える大切な水ですから」と話す。

現在、研究活動は琵琶湖に注ぐ川の源流域にある巨木林での実習へと広がり、より体系的な流域環境の調査へと進んでいる。小林教諭は「源流域での実習をきっかけに、生徒自ら下流域まで思いを向けるようになったようです。流域環境のつながりに気付いたことは、大きな成果だと感じています」と目を細めていた。（平成28年度プログラム助成）

### 学校概要

校訓の「敦厚剛毅」は、高島出身で日本陽明学の祖といわれる中江藤樹の人となりを表す言葉。2020年には創立100周年を迎える。

設立：1920年

生徒数：709人

所在地：滋賀県高島市今津町今津1936

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索